

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391000078		
法人名	有限会社 ネクストサプライ		
事業所名	グループホーム 名古屋荒子の家		
所在地	愛知県名古屋市中川区荒子一丁目41番地		
自己評価作成日	平成25年 3月 1日	評価結果市町村受理日	平成 25 年 7 月 26 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成25年 3月 26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に佇む小規模多機能型居宅介護と併設のグループホームである。一人ひとりへの対応を大切に、敬意の気持ちを持って優しく接している。職員本位の介護にならず、利用者の立場に立つ介護を行っている。また、一人ひとりが、出来ることを継続して行えるように、支援している。利用者様とご家族様との今までの関係の継続を支え、事業所からご家族には常に報告・又連絡を取り、信頼関係を築き上げている。体調の変化・転倒の防止にも最善の注意を払って看護師、主治医と連携を取り、入院への回避を努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念で掲げている「ただいま、お帰り、支えあう暮らし」を基に家庭的で温かい介護の実践に努めている。利用者職員はコミュニケーションが上手く取れていて、明るく楽しい雰囲気である。また、利用者家族と職員も良い関係が築かれている。ホームの食事は全て手作りで当日利用者の好みを取り入れたり、その日の材料で職員同志が工夫して調理を行うなど、食事が楽しみになるように支援している。また、花見、ピクニック、等イベント時の弁当は家庭的で好評のようである。今後管理者は利用者職員と一緒に楽しく外出が出来るように、外出支援に力を入れたり、地域交流の輪を広げて地域に密着して行けるようなホームになりたいと意欲的に検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループの理念に基づき、『地域の中で高齢者の暮らしを支えていく』という概念を言葉にしている。職員にも常に意識して介護にあたって頂く様指導しています	理念は「ただいま、お帰り、支えあう暮らし」である。職員が共有し、理念に添ったケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などの外出時には、積極的に近隣の方へ声を掛けるようにしています。また、地域の活動にも可能な限りで参加しています。今後、地域への参加がよりスムーズにいくよう交流を深めたいところです	毎日の散歩の際や神社の参拝時に、近隣の住民と挨拶を交わしている。ホームの存在や理解を深めてもらう為に近隣にチラシ配布を行ったり、ホームを避難場所として提供を行なっている。	地域の行事、イベントに参加することを望む。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解を深めて頂くため、積極的に地域の清掃活動に参加したり、近所のスーパーへ利用者様と買い物に行くなど、触れ合う機会を設けています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回ホームにて運営推進会議を開催しています。ホームの現状や行事を報告したり、地域行事の確認、また参加メンバーと意見交換をし、サービスの向上に努めている。	運営推進会議は家族、職員、近隣の人の参加で開催して、ホームの現状報告や取り組み、介護保険の説明等行ってる。	市の担当者やいきいき支援センター職員、自治会長等へ参加の呼びかけを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区役所の生活保護担当者と密に連絡をとり、相談したりとアドバイスを受けている。	日頃から区役所の福祉担当者や生活保護担当者と連絡を取り、ホームの現状報告や、相談するなど協力関係を築いている。また、いきいき支援センターからは問い合わせ等が有り、情報交換を行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要のない拘束をしないよう全職員が意識し、心身の拘束をしない介護に取り組んでいます。	身体拘束はマニュアルに添って職員会議で話しあったり、日々のケアの中で職員同志が気が付いた点を注意し合う等、意識の統一を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年3回虐待防止について研修を受けている。精神安定剤や言葉による虐待についても常に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当ホームで生活されている生活保護受給者の多くが、権利擁護を利用しており、NPOの後見人を利用している方もいる。関係者の方々よりご指導頂き、学ぶ機会は日常的にあります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明に加え、加算や改定が生じる際は、必ず説明をし同意を得ている。また具体的な事例をとおして、分かり易くご理解いただけるように考慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には来設時、(利用者様)ご本人へのケアについて意見・希望を伺い、介護の実践・ケアプランに反映させている。	家族の面会時に利用者の様子を伝えたり、意見、要望を聞き、要望、が有れば随時記録に残して、それを職員全員で共有し、速やかな対応に心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、カンファレンスにおいて意見・提案を聞く機会を設けている。また、日頃より職員が意見を出しやすい職場の雰囲気作りに努めている。	職員会議、カンファレンス時に意見、要望を聞いているが、管理者は職員との日々のコミュニケーションの中で意見、要望の把握に努めている。また、職員の意見が言いやすい雰囲気作りにも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の実績を評価した『個人評価』、施設としての実績を評価した『施設評価』があり、認められた者に対して、賞与や身分などのステップアップもある為、向上心を持ちつづけることができる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、及び年三回の定期研修・自由研修を受ける機会がある。また外部研修へも積極的に参加できる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連事業所が近隣では中川区に二施設、熱田区に一施設あり、情報交換しながら相互がより良いサービスが提供できるよう、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からの情報収集に加え、本人の話に傾聴し、環境の変化も考慮に入れながら、職員全員が情報を共有し介護に当り、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調の段階でご家族様の困っていること利用にいたった経過をお聞きし、こちらで出来ること、ご家族が継続して出来ること等はっきりさせながら常に現状を把握しながらご家庭での介護も支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実調の段階でまずご家族との信頼関係を築き、一番要望していることから解決に当り、ご家族の継続した支援も範疇に入れながらケアプランを作成・実施していく。地域との連携		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	プライバシーの保護・本人の生活そのものを尊重し、無理強いせず一緒に生活できるようその時その時のその方の心情を尊重し、関わっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用されるまでの心労を癒し、家族の負担軽減を継続しながら、常に事業所だけの介護にならず少し距離をおきながらも家族に関わっていただくよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人・隣人の訪問は積極的に受け入れ、なじみの人との交流に関して話を聞き、当事業所以外の関係の継続を見守るようにしている。	知人、友人の訪問や手紙を書いたり、電話を掛けたり、今迄の付き合いが継続出来るように支援している。家族の協力を得て、馴染みの美容院、外食、墓参りに出かけるなど一人ひとりの生活習慣を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの生活時間の中で、関わりあえる時間を提供し、閉じこもり傾向のある方にも自然に、共有できる安らぎの時間を持っていただけるよう働きかけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所終了後も生活の変化によりご家族様の対応で大変なことがないか、サービスの内容が変わったことでご家族様が満足されているか電話で確認し、相談にもものついで		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	些細な発言でも気に留めたことを職員が、情報を共有し、ご家族の意見も参考にご本人様の希望・意向の把握に努めている。	利用者に直接聞いたり意思疎通が出来ない人には、日々のコミュニケーションの中で行動や表情を見て感じ取ったことを、連絡ノートに記入して、それを職員間で共有している。利用者の思いや意向の把握に近付けるように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にご家族様に情報提供表にご記入いただき、生活・仕事歴・嗜好について把握している。これまでのサービス経過についても実調にて確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護職員が一人ひとりについての詳細記録に変化・過ごし方・心身状態について、記し職員が情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネは詳細記録を参照にカンファレンスを開き、ご本人様の現状に即した介護計画を立案するとともにご家族の意見を反映させ吟味しながら介護計画を作成している。	モニタリングは2、3ヶ月毎に行なっているが、状態変化が見られたら1ヶ月毎に変更している。詳細記録、家族、職員の意見を取り入れて半年毎に介護計画の作成が行われ、変化が見られた際は随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護詳細記録に日々の記録をし、カンファレンスで問題提起・見直しなどに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアマネは現状の把握に努め、生活や体調の変化に合わせ、個別の対応ができるような介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事へ積極的に参加し、地域の住民の方々と交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の2週間に1回の往診時には本人の生活状況も理解していただくよう努め、利用者様と主治医のコミュニケーションが円滑にできるよう取り計らっている。バイタルの測定値・体調の変化も常に報告している。	二週間に一回協力医の往診が有る。歯科は必要に応じて訪問が行われ、半年毎に検診が実施されている。専門医を受診の場合は紹介状を持って、基本家族が付き添っている。専門医と協力医の連携も出来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入浴時の身体観察やバイタル・排便等の様子を看護師に伝え相談し、主治医往診時に伝え指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した病院へ治療経過を確認しに伺い、事業所での受け入れ可能状態などご家族様の希望もとり入れた相談をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の他事業所利用の可能性などご家族様と話し合い、当事業所で可能なこと・不可能なことをきちんと伝え、今後の応について前もって話し合っている。	入居時に重度化や終末期に向けてホームで出来る範囲を家族に説明して同意を得ている。医療行為は出来ないのもので、家族、協力医、職員が話し合っ、今後の方針を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急車への情報提供書の記入を事前に行い、緊急時に迅速な対応が出来るようにしている。訓練は行っていないが、常勤の職員は研修を入社時に受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	荒子の家を近隣の方の一時避難場所として提供している。避難訓練は行っている。また、利用者様の非常食・飲料水が確保されています。消防署に指導も依頼している。	避難訓練は年二回6月、11月同法人の事業所と合同で昼夜想定で実施している。11月には消防署員立ち会いの元、消火器の使用方法、避難誘導の指導を受けている。備蓄については水、食料が確保されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの保護に留意しながら、認知症がありながらも人生の先輩として敬意を払いながら一人ひとりにその方に応じた声掛けを行っている。	利用者を人生の先輩として敬い、居室に入る際はノックをして入っている。トイレ誘導の声掛け等馴れ合いにならないように言葉使いには気を付けている。また、職員会議の際に勉強会を行い、意識の統一を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の話を傾聴しながら、信頼を持ってお話いただけるよう接し、その方がどうしたいのかを素直に言えるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状態に合わせた対応を心がけ、それにより職員側も臨機応変に業務の変更ができるよう柔軟に対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装について「今日の服とても合ってますね」などご本人様が年をとってもおしゃれでいれるよう言葉掛けをおこなっている。全員の理髪も業者に依頼し2ヶ月に1度実施している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	全員ではないが、食品の買出し、食事づくり、食器洗いなどに参加していただいている。遅くても自分で食べれるように常に心がけ支援している。	食材はまとめて職員と利用者が買い出しを行い、その日の材料で利用者の意見を取り入れて、献立を決めている。食器洗い、食器拭き等利用者の機能を活かしている。おやつ作りやお好み焼き等楽しみの一つで有る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿の方や慢性心不全など主治医の指示に従うと同時にご家族の方から嗜好についても情報を戴き、職員全員が情報を共有し、一人ひとりに合わせて食事・水分が調整できるように心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全員に口腔ケアをおこなっている。誤嚥性肺炎にも気をつけ、義歯の状態も常に観察し訪問歯科との連携をとり口腔ケアの指示もいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で常に管理しながらその方が自立で排泄行為ができるよう定期的なトイレ誘導も個別対応し、指示や見守りを中心に支援している。	基本的にトイレでの排泄に努めている。職員は利用者個々の排泄パターンを把握し、排泄チェック表を確認しながら適時に声掛けてトイレ誘導を行い、全員自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、廃用性症候群など便秘への影響についても看護師を交えて相談し、定期的に排便があるよう管理している。食事のバランス・水分摂取量にも気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に毎日入浴していただけるようにしているが、入浴を断る方もあり少し時間をおいて何度かお誘いしている。	毎日午後から入浴している。入浴剤入れたり、柚子湯にしたり工夫をしている。入浴の際には皮膚観察を行ったり、体調不慮の場合は清拭をおこなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に居室で休んだり寝ていただくことが可能であるが、夜間にぐっすり寝ていただけるようなるべく日中はリビングで楽しんでいただけるような配慮もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別の薬管理表に記入し、管理・把握している。ひとりひとりがきちんと服薬できるよう飲み込みまで確認し、副作用や体調などの変化についても逐次主治医・看護師に報告し指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族様から生活歴・仕事歴について、情報提供していただき、それをもとにレクやお手伝いなど生き生きと過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの体調に合わせ希望を聞き散歩に行くようにしている。急な対応は難しいですが、買い物希望する方には職員が付き添い、化粧品・洋服などの購入にも付き添っている。	日常的に公園の散歩や神社へ参拝している。ピクニックや花見に出かけたり、駐車場で外気浴しながらお茶飲んだり、バーベキューや運動会も行なっている。家族と外食に出かける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全員には無理ですが、必要に応じてこちらで保管している本人の所持金を渡し、一緒に買い物に行くことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話できるように携帯の所持も了解している。又、利用者からの希望で手紙や電話の通信にも協力している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除・整頓は生活環境において清潔が保たれるよう日常的に注意をはらっている。混乱を招くようなものは排除し、壁は利用者の方の作成した暖かみのある作品で装飾し、季節感を醸し出すよう配慮している。	ホームの中に行事の写真や利用者と職員と一緒に製作したちぎり絵、切り絵が展示され温かい空間作りをしている。リビングのソファで利用者同志雑談したり、テレビを観ながら寛いでいる様子が窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でも利用者様が思い思いに過ごせるよう、その場に合わせた空間作りに対応している。居室は利用者様全員が自由に入出でき、利用者同士他の部屋へ訪問し談笑することもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に居室にはその方が落ち着いて過ごせるよう今まで部屋にあったものなど持ってきていただき、自分の部屋だと認識していた だけようご家族に協力していただいている	全体にスッキリとした居室が多いが、仏壇の他、馴染みのタンス、テレビ、時計が置いてあり、壁には制作物が貼られ、個性的で居心地の良さが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなど解りやすくし、ひとりでも行けるような配慮をしている。何がどこにあるかもわかり易く配置している。薬品等は手が届かない場所に保管している。居室の環境整備も毎		

外部評価軽減要件確認票

事業所番号	2391000078
事業所名	グループホーム 名古屋荒子の家

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	自治会に加入して回覧板を回して貰っている。町内会の行事は少ないので、市町村の行事、イベントの催しに参加したいと検討している。ボランティアではフラダンス、和太鼓の受け入れを行い、利用者也演奏するなど交流を深めている。今年度はそば打ちの受け入れを企画している。	○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	運営推進会議は併設の小規模多機能と合同で二ヶ月に一度家族、職員、地域の人々の参加で実施し、ホームの活動を報告すると共に、参加者の気づきや意見を日々の支援に活かしていけるように努めている。	○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	区役所には書類の申請や分からないことが有ると電話で問い合わせたり、出向いて相談する等協力関係を築くように努めている。また、市、区主催の研修も随時連絡が入り、職員が参加し、ホームで研修内容を報告することで、職員間で共有している。	○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	家族には、月一回の請求書を取りに来訪時や電話連絡で利用者の状況やホームの行事等を報告している。また、郵送の人にも書面で知らせている。家族から出された意見、要望に対しては職員間で周知徹底して速やかな対応に努めている。	○
重点項目⑤	その他軽減措置要件	評価
	○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	○
	○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	○
	○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	×
総合評価		×

【過去の軽減要件確認状況】

実施年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
総合評価	×	×	×	×		

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取り組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。